



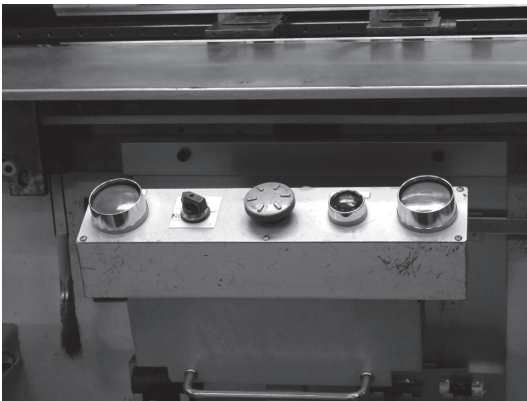
## 事例 6

# 「全員参加」の 安全衛生活動が元気で 安心な職場を進化させる

東プレ岐阜

東プレ岐阜(岐阜県加茂郡川辺町)は、自動車用プレス部品や空調設備、コンピュータ用部品などの開発・製造する東プレの空調機器製造部門が分離独立するかたちで1979年に設立された。主な製品には産業用送風機(エアロトップ)や各種産業用ファン、プラグファン、冷凍式エアドライヤ、住宅用換気システム、バブコンVAV空調システム、ファンフィルターユニット(FFU)、メディカルクリーンユニット(MCU)がある。なかでもシビアな環境条件を要する特殊な施設向けの空調機器には

写真1 両手押し式プレスブレーキのスイッチ



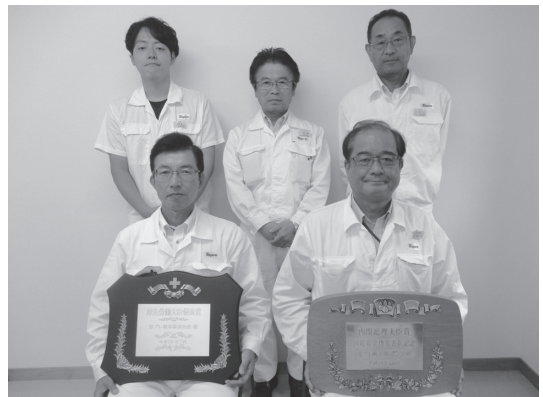
定評があり、半導体や液晶工場、病院の手術室や集中治療室(ICU)などで活躍している。これら特色ある製品と並び、同社を有名にしてきたのが、独自に進めている高いレベルの安全衛生活動だ。

### 安全対策に力を入れていても 労働災害は起こる

「プレス加工を主体にしたモノづくりを行ってきたため、設立当初から安全対策には特に力を入れてきました。たとえば、プレスブレーキに両手操作式スイッチ(写真1)を採用して手が挟まれる事故が起きないようにした時期もかなり早く、しかも、これらの安全装置の多くを自社で開発してきたのです」と春山茂樹社長(写真2 前列右)は安全対策に関する歴史(表1)を振り返る。

そのような積極的な取組みにより、創業以来、無災害記録が続き、1983年には岐阜労働基準局長進歩賞を、92年には優秀賞を受賞して、県内でも

写真2 製造現場の安全を支えるメンバー



### 会社概要

会社名：東プレ岐阜株  
所在地：〒509-0306  
岐阜県加茂郡川辺町下川辺372-7  
設立：1979年  
従業員数：135名(2017年6月現在)  
事業内容：空調機器関連部品のプレス加工



表1 東プレ岐阜の安全対策に関する歴史

東プレ岐阜の安全衛生活動年表	
1979年11月	会社設立
1983年4月	安全優良事業所として岐阜労働基準局長進歩賞を受賞
1992年4月	岐阜労働基準局長優秀賞を受賞
1996年3月	厚生労働大臣賞進歩賞を受賞予定だったが工場内で骨折事故が起きたため辞退
2000年7月	安全優良工場として労働大臣賞進歩賞を受賞
2002年6月	環境ISO14001認証を取得
2003年9月	品質ISO9001認証を取得
2006年5月	環境・品質ISO統合版認証を取得
2008年7月	安全優良工場として厚生労働大臣賞優秀賞を受賞
2009年7月	無災害310万時間達成
2012年7月	内閣総理大臣表彰産業安全の部受賞
2017年7月	無災害532万1,200時間を達成700万時間に向けて継続中

トップクラスの安全優良事業所だと認められるようになる。

そして96年、ついには厚生労働大臣賞進歩賞の受賞が決まり、評価が全国規模に及ぼうとしたとき、不幸な事故が起きた。

「社員の1人が重量のある材料を台車の上に積んで運んでいたところ、バランスを崩して自分のほうに倒れ、右足を複雑骨折してしまったのです。私たちは初めての休業災害が起きてしまったことにショックを受けるとともに、大きな反省をし、安全対策そのものを全面的に見直すことに決めました」(春山氏)。

けじめを付けるためにすでに受賞が決定していた、厚生労働大臣賞進歩賞も辞退し、さらなる安全性追求のための新たな挑戦が始まったのである。

### 安全衛生活動基本方針が定める全員参加

事故をきっかけに、まず、力を入れたのが、社員たちへの安全教育の徹底だった。

寺町和晃取締役工場長(写真2前列左)は「それまでもさまざまな目標を立てて安全対策を進めてきましたが、主な作業を担当するのは専門のメンバーだけであり、すべての社員が参加していたわけではありませんでした。それでは高い安全意識を共有できないと考え、全員で取り組む安全衛生活動へと切り替えをしたのです」と話す。

その理念は、安全対策の指針となる安全衛生活

動基本方針においても、次のように明文化されている。

1、「全員参加」を基本とする

2、元気に安心して働ける職場作りを目指す

そして、具体的な取組み内容として示されているのが次の4項目だ。

- ・安全を第一とする人づくりを実施(安全パトロール・リスクアセスメント)
- ・情報発信による危機意識の共有
- ・5S(整理、整頓、清掃、清潔、しつけ)に日頃の習慣をプラスした各職場の6S活動の推進
- ・安全衛生関連法令及び安全衛生委員会決定事項の遵守

「安全衛生活動の中核となる安全衛生委員会は、会社代表の5名と従業員代表の5名とで構成されています。このうち、従業員代表については任期を1年間とし、継続は認めずに、毎回、交代するようにしているのです、多くの社員が経験することになるのです」(寺町氏)。

加えて、毎月開催される委員会の日には全社の施設を巡回して危険だと思われる個所をチェックしていく「安全パトロール」が行われるのだが、これに参加する8人のメンバーも交代制なので、社員たちは1年から1年半の間に必ず1回は当番が回ってくる計算になる。

「直接、安全衛生活動に参加するようになったことで、『職場の安全性は自分たちで高めていくんだ』という意識が高まっていったと思います。その結果、新たな気づき生まれ、より細かく、より深いレベルで安全への取組みができるようになったのです」(寺町氏)。

安全パトロールはすでに35年近く続けられているにもかかわらず、今でも毎月、20件近い発見がある。

「見つかったリスクはすべて報告書にまとめられ、必要だと認められればすぐに対策を行います。この作業を繰り返していくことで、安全性はさらに高まっていくのです」(寺町氏)。

### 多面的な取り組みであらゆるリスクをなくしていく

安全パトロールのような組織横断的な活動に加